

# てんとうむし



発行日：2019年8月

## 新元号と新体制

子どもシェルターてんぽホーム長 篠島 里佳

5月1日に「平成」から「令和」に元号が変わりました。連日テレビでは、どの局もその話題で持ち切りでしたが、テレビを観ていた利用者の1人が「私も『平成の人』って言われちゃう。今まで『昭和の人』と小ばかにしていたけど、今度は自分が『令和』生まれの人から『平成の人』と言われようになるのか～、嫌だな～！」と言っていました。私は昭和生まれなので、すでに3つの時代を生きていることになり、時代の移り変わりを痛感している今日この頃です。

子どもシェルターてんぼも開所から12年の月日が流れ、その間にはスタッフやボランティアの方々も入れ替わりがありました。多くの皆様に支えられて、今日のシェルターがあることを痛感しております。今年に入り新たに迎えたスタッフが2名、退職したスタッフが2名おりますので、今号の紙面をお借りしまして、ご紹介させて頂きたいと思います（新スタッフ紹介は4頁です）。

〈退職するスタッフからのご挨拶〉

★4年間、シェルターてんぼのスタッフとして働かせて頂きました、ピーチ（ブログ名）です。私は子どもの心のケアがしたいと思い、臨床心理士の資格を取りました。心理士として研鑽を積む中で、面接場面だけではなく、日常の生活場面で子どもと関わることも大切であることを知り、てんぼの仕事に興味を持ちました。てんぼで生活する子ども達を見ていると、衣食住が確保されることが、どれだけ心の安心感に繋

がるのかを肌で感じます。辛い思いをしてきて、真っ暗闇の中で今後どう生きていくべきか分からない、そんな子たちにとって、てんぼが安心して休める居場所になるように、少しでも貢献出来ていれば嬉しいです。

最後に。私事ですが、この度結婚することになりました。今後は子どもや子育て家庭の相談やカウンセリングをしていく仕事に就くことが決まりましたので、てんぼでの経験を活かして頑張っていきたいと思います。今までありがとうございました！これからも、ご縁があった時にはぜひよろしくお願い致します。

♥ボランティアの後、職員として働かせていただきましたTMです。この4年間にここで出会った子どもたちは皆おぼえています。一緒にご飯を食べ、おしゃべりをした利用者さんが、退所した日からまったく会えなくなることは、寂しい事ではありました。でも以前、研修会の講演者が「彼らに会えるあなたたちは、とても尊い機会を天から与えられている。」と仰ってました。あのどうしてるのかな、あんなことあったな、こんなおしゃべりしたな、よく思い返します。彼らにも少しでも暖かな思い出を残せたらと思います。これからはまたボランティアとして子ども達に会いに来ます。どうぞよろしくお願いします。



## 「家」なき子どもたちはどこへ？ 開催報告

みずきの家ホーム長 中山 俊介

2019年5月25日、港南区民文化センター「ひまわりの郷」ホールにおいて、子どもセンターてんぽシンポジウムを開催いたしました。



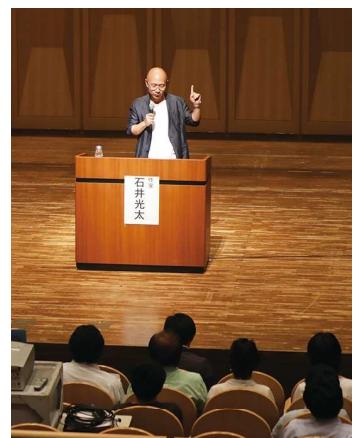
かけて放映された子どもシェルターをモデルとしたテレビドラマ「さくらの親子両2」の映像を抜粋した動画をもとに、シェルターでのルールや生活などについて解説を行いました。このドラマはフィクションではありますが、てんぽを含む複数の施設に取材をした上で脚本が書かれており、世間にほとんど知られていないシェルターの状況を映像で伝えることができたのではないかと思います。例えば、スタッフは利用者に対して「ハグはしない」という場面は、来場者アンケートにおいて「考えさせられた」などの反響が多くありました。

続いて、メインプログラムとして、作家の石井光太さんから「児童福祉は子どもとつながれるのか」と題して、講演を行っていただきました。石井さん御自身が、児童養護施設や少年院など、青少年の支援に関する施設を全国的に回って取材を積み上げた経験や、少年による重大事件の関係者への取材等から、被虐待を始めとする児童を取り巻く現状と課題について大変示唆に富んだお話ををしていただきました。虐待によって

子ども自身の中に溜めこまれた負のエネルギーにどのように対処していくかという問題提起に関するのこと、児童福祉施設が子どもたちに対して有効な支援を行うために、それぞれの人生経験から、子どもとフィーリングが合って理解することができる人材や、子どもと一生つながっていてくれる職員が必要であるという投げ掛けなどに対して、来場者アンケートでは「考えさせられた」、「共感した」などの感想が多く寄せられていました。

講演後の質疑応答時には、児童福祉を職業としない人にとって、社会の一員としてどのような支援ができるかという質問が出されました。これに対して、施設だけで児童の抱える複合的な問題を全て解決することはできないので、社会全体が網のようになって子どもたちを支えること、学校や職場など、施設以外の場所で関わる大人が、本人を肯定して向き合い支えていくことが重要であるとの回答があり、来場者アンケートでは「とても共感した」との感想が寄せられていました。

本シンポジウムに足をお運びいただきました皆様に深く感謝申し上げますとともに、多数の方々と子どもの支援について考える機会がありましたことを力として、今後現場での支援に一層励んでいきたいとの決意を新たにしながら、本シンポジウムの報告とさせていただきます。



# 全国シェルター便り⑨

NPO法人子どもセンターぼると 理事 黒沼 有紗

## 新潟（のような田舎）でシェルターが必要な理由

神奈川と言ったら、新潟県人の感覚では、「横浜！都会！」です。てんぽさんを必要とする子どもたちの数もきっとたくさんいるのだろうなと思います。

私たち「ぼると」は、新潟で子どもシェルターを始めて5年目になります。開設当初は「子どもシェルターなんて、ニーズがあるの？」と疑問を呈されることもありましたが、5年目の今思うのは「『中規模の都市だと子どもシェルターニーズがない』なんてこと、絶対にない！」ということです。

中小規模の都市では、近所や地域の目があるため、虐待を防ぐことができているかのように思われがちです。しかし、近所や地域の「近さ」が、虐待が隠される温床となってしまうこともあります。たとえば、子どもがSOSを発しようと思っても、肝心の相談機関や学校に自分の親と知り合いの人が勤めているから相談しにくい、などです。中小規模



の都市の子どもたちは「親から、あんたなんて生まれてこなければよかった、って言われて辛いから家に帰りたくない」と打ち明ける相手が見つからず、相談すらできないことがあるのです。ですから、私は、新潟のような中小規模の都市にこそ子どもシェルターが必要だと考えています。子どもシェルターを設置しようととした場合、行政からその必要性を数字で示すように求められることがあります。子どもたちが相談機関にたどり着いていない現状では「子どもシェルター設置の必要性を数字にして示す」ことは困難を伴います。

ですが、「新潟のような田舎にこそ、子どもシェルターが必要だった！」というのが実感です。いま子どもシェルターがない地域にも子どもシェルターが広がっていくといいな、と願っています。

## 山村ホームの貸し出しについて

子どもセンターてんぽ理事 鈴木 栄子



前号(23号)で山村ホームの紹介をさせていただきましたが、今回は貸し出しのお知らせです。山村ホームは、相鉄線の「いずみ野」駅からバスで10分ほど、ちょっと交通が不便ですが、平屋の4LDKで広いお庭と小さな畠もそばにある日本家屋です。ボランティアの皆様のおかげで、お庭の整備も進み、室内も整ってきましたので、会員の皆

様とその関係者限定ですが、有効に活用していただければと思っています。

原則利用は日中のみで泊りはできません。調理器具や食器、机などの備品も用意しております。ご利用には事務局への事前申し込みが必要です。詳しくはホームページをご覧ください。



どんなところかな～？とお思いでしたらもちろん見学も大歓迎！！(平日のみ)

# 子どもの家から

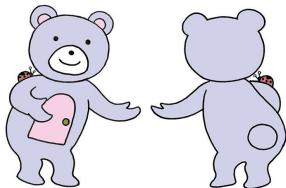
子どもシェルターてんぽ スタッフ

このコーナーでは、新たにシェルターへ迎えたスタッフの紹介をさせて頂きます。

♥ はじめて。

今年2月からシェルターてんぽのお手伝いをさせていただいております。週3回の非常勤で事務・留守番・食事づくり等の業務を担当しています。

かつて児童相談所や福祉保健センターで事務職として勤めた経験をいかし、スタッフやボランティアさんの下支えとして、また、入所する子ども達には少しでも体や心を休められるお手伝いができればと勤め始めました。モットーは「和顔愛語」。穏やかな笑顔で一日が過ごせることを願っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



★ こんにちは

4月からてんぽでスタッフとして働かせていただいております。ブログでは「ピカ子」としてデビューしていますw。これから、ブログで時々お会いで思ってください!!

若い頃は「歌って踊れる保育士」を目指していましたが、年齢と共に目指す姿が変化してきました。てんぽでは「そっと寄り添える空気感」を意識して、子どもたちと出会ったその時を大事に共有できたらと思っています。てんぽに来た子どもたちが、色々な大人がいて、色々な生き方が感じられ、自分たちの人生の選択肢が広げられる、そんなきっかけの1つになれば幸いです。他のスタッフやボランティアさん、子担弁護士の方々に支えて頂きながら、務めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

## みずきの風 「チーム」

みずきの家スタッフ 中山 祐恵

バトンをつなぎながら毎日が過ぎてゆく。同僚と理事を尊敬している。とりあえずホーム長は置いといて、スタッフ4人の紹介を。

- 1 彼女はさりげない細かい点までよく気付く。よく聞く。経験と感性、人に向ける眼差しは何とも温かい。
- 2 彼女が来るとパッと雰囲気が明るくなる。日常の生活の積み重ねに勝るものはないと教えてくれる。話しやすい。人の心にスッと入っていく。
- 3 彼女は退去者の一人暮らしが軌道に乗るよう見守っている。その人の状態が良い時も悪い時も通い続ける。傍にいる。その立ち位置は自然体で優しい。
- 4 利用者の生活する環境を整えることが仕事。ス

タッフは空気か家具の一部くらいに思ってた方が、気持ちが楽よ。」自分が何となく行き詰まっていた時、彼女の言葉はふうーっと心を軽くしてくれた。冷静で柔軟、私には気づかない的確な視点で話してくれる。

そして、陰で支えて下さっているボランティアの方々の善意の御協力は、本当に嬉しく心強い。「〇〇さん、大丈夫だったかな…。」帰宅してもつい気になり、いつの間にか夫とみずきの家のことを話している。よく使われる「寄り添う」という言葉の意味を、素敵な同僚や関わってくださる全ての人たちから少しずつ体感させていただいている。



# 子どもセンターてんぽを利用して ⑯

## 「子どもセンターてんぽが生徒さん方にくれた勇気」

元SSW 渡部 厚子

私は、スクールソーシャルワーカー(SSW)として、生徒方の様々な課題に関わらせて頂きました。その中で、保護者からの連れられない執拗な各種の虐待に苦しみ悩むケースが多くありました。何名かの高校生徒さんことで、てんぽさんと連携させて頂きました。学校や児童相談所で必要回数の面談が行われ、本人、教員、SSW、センター職員2名で、詳細に渡って慎重に進められました。避難までの行程や避難後の生活、ご家族や関係先（バイト先等）との連携について話し合われました。

関わったどの女の子も、てんぽスタッフ方の安心・信頼できる対応に、固かった表情が少しずつ柔らかくなり、会話も増えていきました。そして、「家族から離れる」事を決断する人生の局面がそこ

にありました。私は、児童相談所でてんぽスタッフ方と生徒さんをお見送りするところで終了ですが、てんぽからの連絡を校内で共有し、「みずきの家」から登校を再開する姿を喜ばしく見守っていました。

学校、保護者、その他関係者との調整が進む中で、重要な役割を担われたのが子担弁護士でした。学校管理職の方々も、そこに安心感を抱かれたのではと思います。実際に保護者方と直接対峙しなければならない学校の立場は、危うく難しいものと痛感しています。教育機関にも子担弁護士が置かれる時代が来たら良いと、頼もしいてんぽさんとの連携の中で感じていました。暖かく、確実な子どもの守り方を教えて下さり、ありがとうございました。

## 子どもセンターてんぽの現状

子どもセンターてんぽ理事長 影山 秀人



2007年2月に設立認証を受けた当法人は、「子どもシェルターてんぽ」と「自立援助ホームみずきの家」の2施設の運営及び「居場所のない子どもの電話相談」等の事業を展開しています。

2007年4月に開所した子どもシェルターてんぽは、現在13年目に入っています。この間にシェルターを利用した子どもは120名を超えます。様々な理由で帰る家がないなどの十代後半の子どものたちに、安心安全な居場所、あたたかい食事、一緒に今後のことを考えるスタッフや弁護士等の支援者を提供してきました。利用者の8割くらいは女性でした。スタッフやボランティアは、開所当初よりはかなり増えましたが、人材確保は常に大きな課題です。

また、退所先も様々ですが、その子その子に最適な場所の確保はいつも大変です。多くの関係機関の御協力に心から感謝いたします。

退所先の候補としてとても重要なのが自立援助ホームです。私たちは、2010年6月にみずきの家（定員、女子6名）を開所し、早くも9年が経ちます。一時期、入所者数が低迷したこともありましたが、現在は、ほぼ満員状態で推移し、子どもたちの笑い声が絶えない毎日です。

両施設とも、昨年新ホーム長を迎え、スタッフの世代交代もしつつ、より充実した支援を目指して頑張っています。これからも皆様のご支援、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ご支援ありがとうございます

2019年も私たちてんぼの活動に対して、個人や企業のみな様から多大なご支援をいただきました。  
今回は2019年1月から6月までに物品や資金のご寄付をいただいた企業や団体のお名前をご紹介させていただきます

- |                     |                         |               |
|---------------------|-------------------------|---------------|
| ▶コストコホールセールジャパン株式会社 | ▶ノエルの会                  | ▶株式会社モンテビアンコ  |
| ▶一般社団法人生命保険協会神奈川県協会 | ▶特定非営利活動法人 WE21ジャパン港南   | ▶株式会社ファンケル    |
| ▶横浜ベイロータリークラブ       | ▶特定非営利活動法人 WE21ジャパンこうほく | ▶株式会社AOKI     |
| ▶いちょう団地連合自治会        | ▶東京海上日動火災保険株式会社         | ▶NPO法人夢キューブ   |
| ▶株式会社 kanoya        | Share Happiness 俱楽部     | ▶株式会社カーブスジャパン |
| ▶しんゆりメンタルヘルスクリニック   | ▶有限会社ダスカジャパン クアウテモック    | ▶株式会社 大林組     |
| ▶日本基督教団ひの木教会        | ▶若草プロジェクト               | (敬称略 順不同)     |

この他多くの個人の方々からも、物品や資金のご寄付をいただいているます。  
みな様からの変わらぬご支援に紙面を借りてではございますが深く感謝させていただきます。

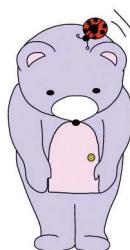
### ご協力のお願い

会員になって私たちの活動と一緒に支えてください。運営資金や子どもたちに必要な物品のご寄付もどうぞよろしくお願いいいたします。いただいた会費やご寄付はシェルターの運営、自立援助ホームの運営、その他子どもセンターてんぼが行う事業に活用させていただきます。

なお、今年度から新たな会員区分として「法人会員」ができました。よろしくお願いいいたします。

#### 【振込口座】

- ◆三菱UFJ銀行 新横浜支店 普通 0350513  
特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ◆ゆうちょ銀行 ○二九(ゼロニキュウ)店  
当座 0133408  
特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ



### 編集後記

てんとうむし24号をお届けします。  
2015年5月発行の第17号から前号まで、川島さよ子様がデザインを担当して下さいましたが、残念ながら今回から交代となります。川島様4年の長きにわたり、素敵でかわいいデザイン本当にありがとうございました(くまの「ぽんた」を登場させてくださったのは川島様です♥)  
そして、今号からデザインを担当してくださるのは、高城貞雄様です。

なんと高城さんは沖縄に住んでいるのですよ!! これからどうぞよろしくお願いいいたします。  
引き続き記事に対するご意見等ございましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

(編集 鈴木)

正会員	入会金 5,000円、年会費 5,000円
賛助会員	入会金 3,000円、年会費一口 3,000円
法人会員	入会金 10,000円、年会費一口 10,000円

☆ご寄付は金額の多少にかかわらず大歓迎です☆

### 会員の皆様へ

#### 会費納入のお願い

いつもてんぼの活動をご支援いただきありがとうございます。てんぼの活動は、皆様の会費によって支えられています。今年度の会費を納入忘れていませんか?  
もし、お忘れのようでしたらこの機にぜひ納入していただきますようお願いいたします。

「てんとうむし」は特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ事務局が、責任を持って編集・発行しております。本誌に関するご意見等ございましたら、下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

### 子どもセンター てんぼ事務局

〒222-0033  
横浜市港北区新横浜 3-18-3 新横浜法律事務所内

Tel : 045-473-1959

Fax : 045-477-5822

E-mail : info@tempo-kanagawa.org

URL : http://www,tempo-kanagawa.org/

デザイン協力: 高城 貞雄